

---

【テキスト中に現れる記号について】

《》：ルビ  
(例) 心《こゝろ》

《〔 〕》：底本の編集部による、現代仮名遣いのルビ  
(例) 行く積《〔つもり〕》

---

今度は短篇をいくつか書いて見たいと思ひます、その一つ一つには違つた名をつけて行く積《〔つもり〕》ですが予告の必要上全体の題が御入用かとも存じます故それを「心《こゝろ》」と致して置きます。

底本：「漱石全集 第十六巻」岩波書店  
1995（平成7）年4月19日発行

初出：「東京朝日新聞」  
1914（大正3）年4月16日  
「大阪朝日新聞」  
1914（大正3）年4月17日

初出時には、「小説予告」「心《こゝろ》」として発表された。

底本のテキストは、「東京朝日新聞社内、山本松之助宛書簡」1914（大正3）年3月30日付による。

作品の表題「『心』予告」は、底本編集部による。

ルビのうち亀甲かっこ〔 〕付きのものは底本編集部によるもので、現代仮名遣いである。

(例) 積《〔つもり〕》ですが

底本には次の記述がある。「必要上」は、原稿では「必要用上」となっており、本全集本文のとおり訂正した（新聞も「必要上」）」

入力：砂場清隆

校正：小林繁雄

2003年3月31日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（<http://www.aozora.gr.jp/>）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。